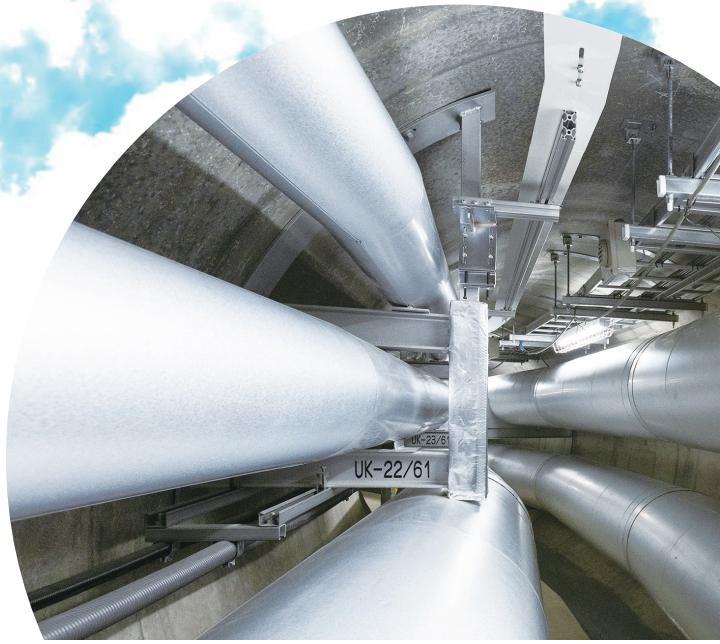
環境レポート2026

1976年の事業開始より当社は、“都心の地域冷暖房を通じ、
「より良い都市環境の創造」をめざす”という基本使命の下、
省エネや温室効果ガス排出量削減といった環境負荷低減に
取り組んでまいりました。
2021年4月、政府は2030年に向けた温室効果ガス排出削減目標を
46%（2013年度比）に設定することを発表しました。
低・脱炭素社会の実現に向けた流れが加速する中、
地域冷暖房システムに期待される役割がさらに大きくなると考えています。
しかしそれは当社のみならず、エリア全ての関係者の皆様と
一緒になって取り組むべき課題でもあります。
当社の取組み実績をトピックを含め
ご報告させて頂く本環境レポートを、
皆様方の省エネの取り組みの
参考にして頂ければ幸いです。

SUPER TUBE
MARUNOUCHI HEAT SUPPLY CO.,LTD.



街と歩む、街を支える。

丸の内熱供給株式会社

三菱地所グループ

1 総合エネルギー効率およびCO2排出量

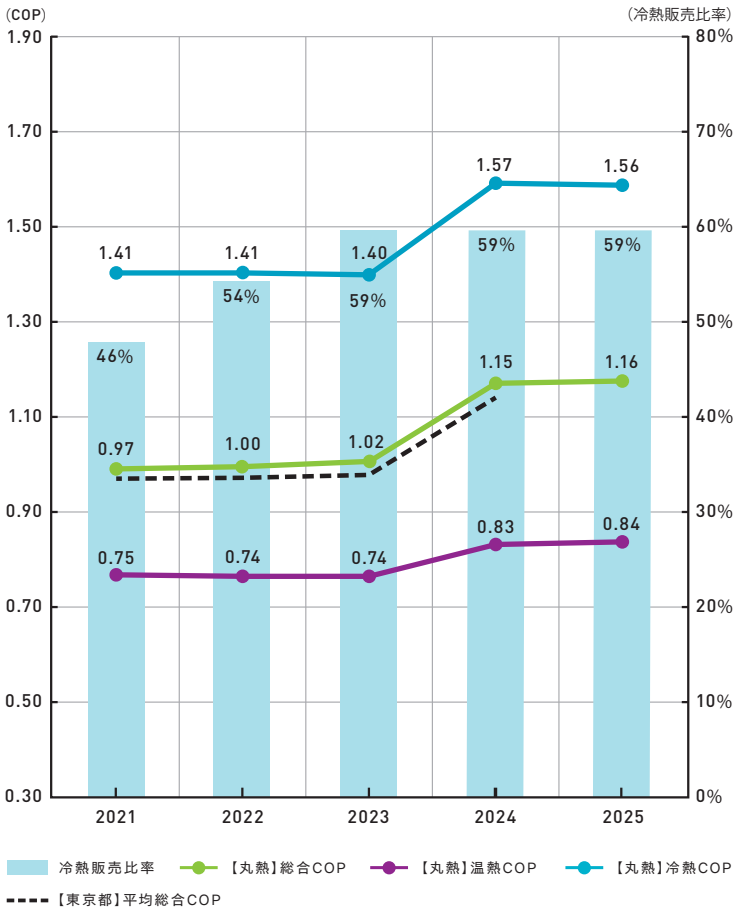
(1) 全地域COP年度推移

総合エネルギー効率(COP)とは、使ったエネルギー(電気・ガス)と作ったエネルギー(冷水・蒸気等)の比率のことで、この数値が高い方が優れています。
2024年度からは算出に使用する係数が一部変更になったこと、ならびに他社から受入れたCGS排熱を未利用熱として控除することが可能となりました。2024年度以降は変更後の算定方法に基づき評価します。
2025年度の冷熱エネルギー効率(青)は前年をわずかに下回りました。年間の冷熱需要は減少したものの、夏季ピーク時には冷熱需要が増加し、固定速ターボ冷凍機や吸収式冷凍機の稼働が増えたことで、高効率ターボ冷凍機による冷熱製造の割合が相対的に低下したことが主な要因です。
一方、温熱エネルギー効率(紫)は、温熱需要の増加に伴う負荷率向上などにより、前年より向上しました。この結果、総合COPは前年とほぼ同水準となりました。

東京都もCOPの向上を重視しており、エネルギー供給の効率等を記載した実績報告書を公表し、より高効率なエネルギー供給への転換や、高効率な地域熱供給への加入を促しています。
なお、同報告書(2025年度実績)において、当社各プラントの評価は以下のとおりです(下表参照)。

東京都環境局の基準による各地域のエネルギー評価

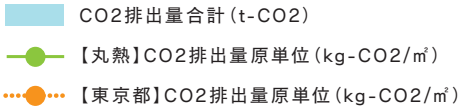
エネルギーの効率	評価	地 域
0.90以上	AA	大手町、丸一・丸二・有楽町、内幸町、青山
0.85以上0.90未満	A+	
0.80以上0.85未満	A	
0.73以上0.80未満	A-	
0.70以上0.73未満	B	
0.70未満	C	

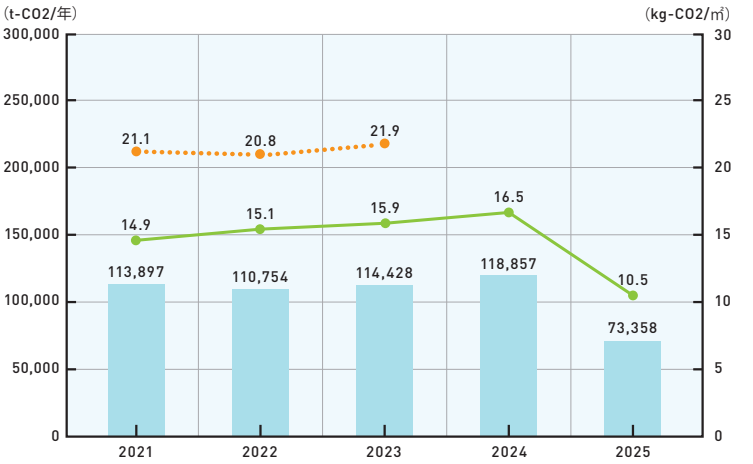


＊東京都環境局地域エネルギー供給実績報告書に掲載されている東京都の熱供給区域(丸熱を除く)の平均エネルギー効率

(3) 年度別CO2排出量

2025年度は、再生可能エネルギー由来の電力や非化石証書の活用を進めたことにより、電力由来のCO_2排出量を大幅に削減しました。
その結果、CO_2排出量およびCO_2排出量原単位は前年度から大きく改善しました。当社では今後もCO2排出量原単位の向上に努めてまいります。





2 当社の主な環境負荷低減の為の取り組み

当社の熱製造プラントでは環境負荷低減の為に様々な取り組みを行いながら、更なる効率運転や安全・安定供給に努めています。

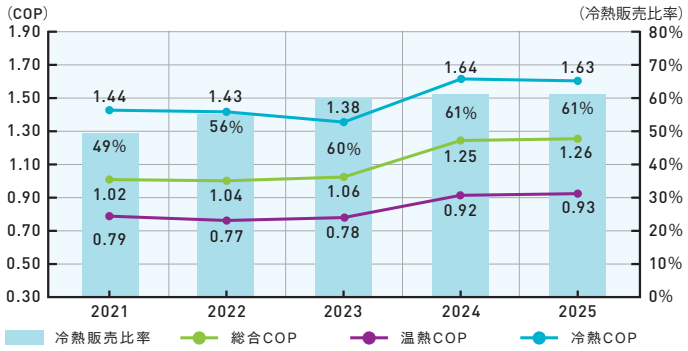
1 **プラントに設置されている熱源機器は、最新の高効率機器の導入を進めており、従来の機器に比べて効率的で環境性・経済性にも優れています。(インバータターボ冷凍機への更新、ヒートポンプの導入等)**

2 **地域間の蒸気配管を連携することで配管ネットワークを構築し、負荷の少ない時期には1プラントから隣接地域へ効率的な供給を行なうと同時に、供給システムの強靭化を図っています。(丸一～丸二～有楽町の3地域間の蒸気配管は既に連携済み)**

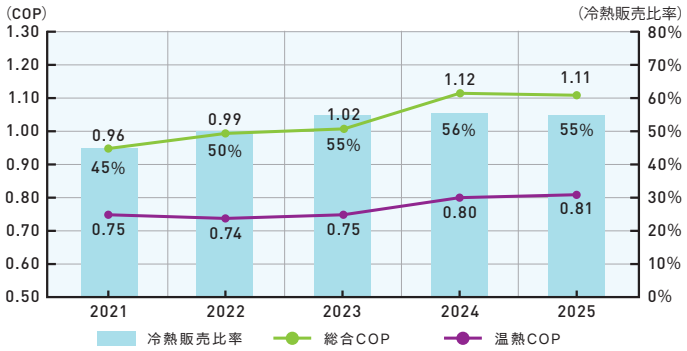
3 **AI最適自動制御システムの導入を進めています。2020年に導入したプラントでは、消費電力量4%削減を実現しました。**

(2) 各地域COP年度推移

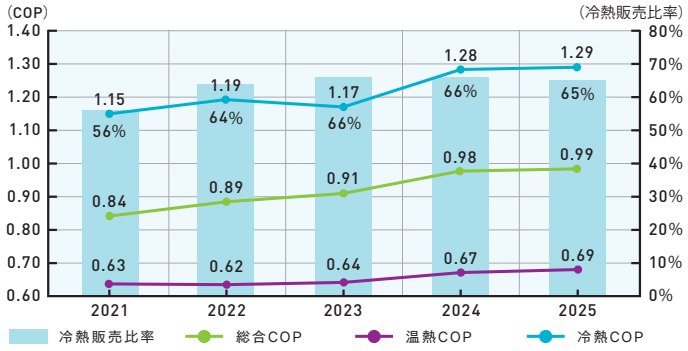
■ 大手町地域



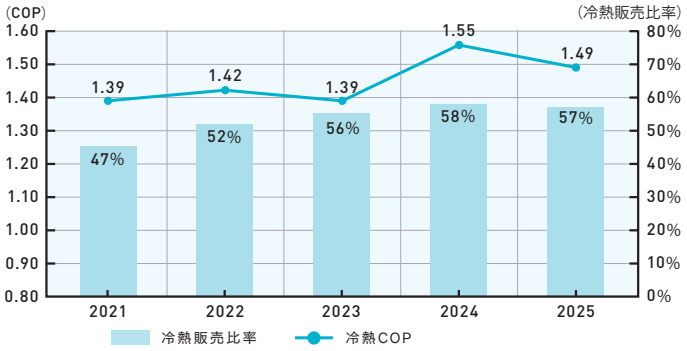
■ 丸一・丸二・有楽町地域　2020年より3地域による連携開始



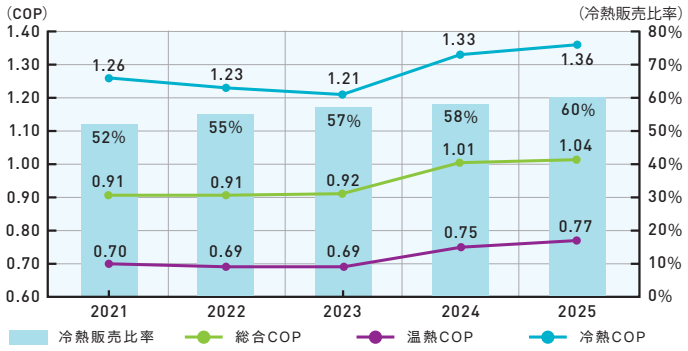
■ 内幸町地域



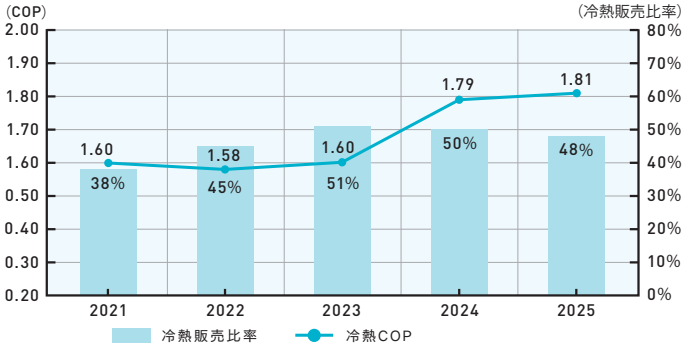
■ 丸一・丸二地域



■ 青山地域



■ 有楽町地域



＊2025年度は速報値

【東京都環境局地域エネルギー供給実績報告書COP算出における変更点】
2024年度実績より、エネルギー効率の算出に用いる係数・単位が一部変更となりました。
（電気：[旧]9.76→[新]8.64、都市ガス：[旧]0.045→[新]0.040、[旧]Nm3→[新]m3）。
CGS受入排熱を未利用熱として控除可能となりました。

【2024年度より丸一・丸二・有楽町地域の表示を変更しています】
総合COP、温熱COP→丸一・丸二・有楽町地域 ／ 冷熱COP→丸一・丸二地域、有楽町地域

4 中水熱利用やCGSインタークーラー冷却水の利用など、未利用エネルギーの積極的な活用を進めており、大手町パークビルではこれらをヒートポンプの熱源水に利用することで、温熱COPは従来の空気熱源と比べ約45%の効率向上となりました。

一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター振興賞受賞（総合システム部門）

5 地域供給配管の断熱材を更新するなど、熱供給設備の熱ロス対策を進めています。

6 冷房排熱を高温度で外気に放熱する個別熱源方式に比べ、当社では屋上冷却塔で潜熱処理をしていることから（都心の）ヒートアイランド現象の緩和にも役立っています。

トピックス ❶ カーボンオフセット熱メニューの提供

当社では、オフセットクレジットや非化石証書によりCO2がオフセットされた「カーボンオフセット熱メニュー」を、2025年4月より提供しています。本メニューをお選びいただくことで、地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）における「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度（SHK 制度）」ならびにエネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（省エネ法）における定期報告書において、2025年度分 実績報告より、事業所で使用する熱由来のCO2排出量をゼロとして報告することが可能になりました。丸の内エリアではこれまでに丸の内ビルディングをはじめとする複数のお客様にご導入いただいており、今後も環境性の高い取り組みや低・脱炭素化の手法をリサーチし続け、社会のニーズに応える熱メニューの検討を続けてまいります。

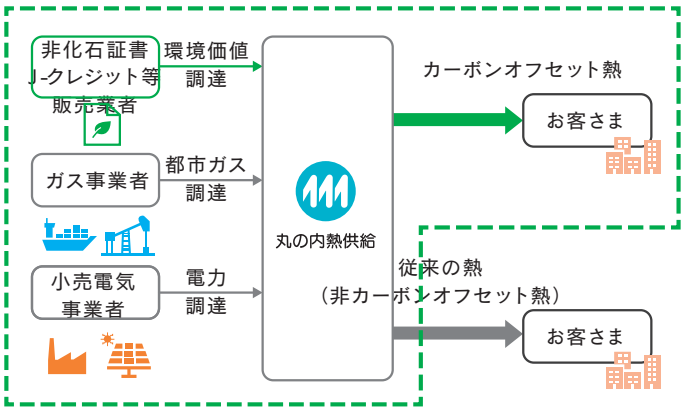


図-カーボンオフセット熱　供給フロー

トピックス ❷ ファーストスクエアサブプラント冷凍機更新における効率向上

ファーストスクエアサブプラント（1992年竣工）では、設置後30年以上が経過した冷凍機の更新を実施しました。これにより供給信頼性を確保するとともに更新後の冷凍機をインバータターボ冷凍機（更新前は固定速機）とすることで供給効率の向上を図っています。また更新容量は直近の熱負荷実績を考慮した合理的な容量を導入いたしました。
現在は大手町ビルサブプラントとの連携用熱交換器のポンプ（固定速）をインバータポンプへ更新する工事を進めており、冷水連携における搬送動力の省エネルギー化を図ります。
当社では、「MARUNETU　VISION　2030」に掲げるプラントCOP向上を目指し、今後もプラント運用エネルギーの削減や低・脱炭素への取り組みを推進してまいります。



更新後のインバータターボ冷凍機

MARUNETU VISION 2030
Beyond DHC!
脱炭素社会へリードする新しい丸熱へ

GROUP MISSION
私たちは、まちづくりを通じて
社会に貢献します

MARUNETU VISION
『Beyond DHC！』
脱炭素社会へリードする 新しい丸熱へ

VALUE

- **更なる強靭化**
  途絶えることのない
  エネルギー供給
- **省エネルギー**
  地域冷暖房のネットワーク
  だからこそ実現できる最高
  水準の省エネルギー性
- **環境価値**
  低・脱炭素化
  先進地域
  大丸有の実現
- **エリアへの貢献**
  エネルギーについて
  ワンストップで充実した
  サービスメニューと技術力
- **共 創**
  三菱地所グループ内外の
  パートナーと共創し、
  低・脱炭素化社会を実現

SUPER TUBEとは
当社では大丸有エリアの洞道および配管ネットワークを総称して「SUPER TUBE」と名付けました。
この「SUPER TUBE」をエリアの強みの一つとして積極的なPR展開をしています。

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-4 常盤橋タワー23階　TEL (03) 6262-3775 (代表)

街の力を、地球の力に。
三菱地所グループ